

(3) 総合科目Ⅲ

総合科目Ⅲ 科目群D

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1D09021	地球環境変動と地球規模課題の科学論	1	1.0	3・4	春AB	金3		鈴木 石根	(1)国連が設定した「国際社会が取り組む地球規模課題(Sustainable Developmental Goals (SDGs))」を導入において紹介し、現代社会が直面する地球規模の環境問題について、問題意識を受講学生と共有する。(2)大気、海洋、陸上環境に大まかに区分けし、それぞれの環境領域で直面する課題について、学術的側面から専門家・研究者による講義による解説を実施する。	(生物開設) 【受入上限数120名】
1D09031	環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論	1	1.0	3・4	秋AB	金3	2C404	鈴木 石根	地球環境課題・問題の現状の理解を基盤に、その課題・問題を具体的にどのように解決していくかを考え、どのような科学技術の開発と発展が有効であるかを学び、「問題解決の方策」を理解する必要がある。この視点がなければ単に机上の空論になりがちな地球規模の環境問題対応となる。そのため、環境修復に有効な科学技術の現状を理解させることも非常に有意義である。アカデミアや国際機関、民間企業、NPOなど、国際社会において環境問題や持続可能社会の構築に貢献している科学技術を紹介し、それらに対する理解を深めるための講義を実施する。	(生物開設) 【受入上限数120名】
1D09313	生命環境科学実習A	3	1.0	3・4	夏季休業中	集中	2C403	田中 健太、和田茂樹	地球環境課題・問題の現状を理解させるため、山岳科学センター官平高原実験所、下田臨海実験センター等の施設を実際に訪れ、海と山のフィールドで生態系や環境を実地で学び、対策を自ら考え、受講生の将来に生かせる実習を行う。日程は集合・解散日を含めて7日間を予定している。この実習によって、卒業研究や大学院進学後の研究など、更にハイレベルな学習への興味とモチベーションを高めることを目的とする。なお、「地球環境変動と地球規模課題の科学論」で学んだことを現場のフィールドで自らの目で見て体験して考えることを目指した実習のため、当該科目を履修していることが望ましい。また、実習先の受入れ人数に制限があるため、人数が多い場合は科目を受講した学生を優先する。春ABの講義科目を履修した学生を主対象に引き続き実習を行う。	(生物開設) 9/13-9/19 【受入上限数10名程度】英語対応可(要相談)
1D09323	生命環境科学実習B	3	1.0	3・4	通年	応談	2C403	鈴木 石根、白岩善博	地球環境課題・問題の現状を理解させるため、山岳科学センター、下田臨海実験センター、国連大学、マレーシア日本国際工科院、タスマニア大学、マードック大学などの施設やフィールドを実際に訪れ、実地で現状を学び、対策を自ら考え、受講生の将来に生かせる実習を行う。日程は、国内は事前、事後指導を含め4日間程度、海外は1週間程度を予定している。この実習によって、卒業研究や大学院進学後の研究など、更にハイレベルな学習への興味とモチベーションを高め、国内、海外研修の機会を提供することによって、将来、研究機関、教育機関における研究職や教育職に興味を持つ学生に高度な勉学の機会を提供する。なお、「環境変動影響と持続可能社会構築の科学技術論」で学んだことを現場のフィールドで自らの目で見て体験して考えることを目指した実習のため、当該科目を履修していることが望ましい。また、実習先の受入れ人数に制限があるため、人数が多い場合は科目を受講した学生を優先する。	(生物開設) 【受入上限数 国内10名程度、海外5名程度】
1D10011	自然保護学入門	1	1.0	3・4	春AB	月2		佐伯 いく代	自然保護に関わるトピックについてオムニバス方式で講義を行う。主な内容は、「自然保護とは何か(総論)」、「生物多様性の保全」、「野生動物管理」、「島嶼生態系の保全」、「昆虫の保全生態学」、「自然保護法制度」、「シオパーク」、「エコツーリズム」、「自然保護と地域コミュニティ」などである。講義は、自然保護寄附講座サーティフィケートプログラムの担当教員が中心となって実施する。自然科学と社会科学の両面をとりいれた学際的な講義構成とする。	(資源開設) 【受入上限数120名】平成30年度以前に総合科目ⅡのIC10141自然保護学入門の単位を取得した学生の履修は認めない。
1D11011	ジオサイエンスのフロンティア	1	1.0	3・4	春AB	火4		高橋 純子、上松佐知子、鎌田 祥仁、氏家 恒太郎、興野 純、角替 敏昭、松下 文経、松井 圭介、松枝 未遠、日下 博幸	地球科学(Geoscience)は、地球内部および表層における諸現象と過去46億年にわたるそれらの変遷過程、その中で営まれる人間社会の有り様を対象とした学問である。その研究分野は多岐にわたる、我々の住む地球に関する知見は日々更新されている。本講義では、様々な分野の研究内容や最新の成果に触れることで、社会の諸分野で活躍する人材にふさわしい教養を身に付けてもらうことを目的とする。	(地球開設) 【受入上限数120名】
1D12011	数学の最前線:未解決の問題への挑戦	1	1.0	3・4	秋C	月1.2	3A403	丹下 基生	数学は常に変化する未解決問題の宝庫である。そのような問題は数学の内部発展の必要性から生じ、また社会的要請からも生まれ、新しい数学を生み出す。このような数学の創造と発展のダイナミクスを、幾つかの話題を通じて解説する。	(数学開設) 【受入上限数120名】
1D13011	現代物理学入門	1	1.0	3・4	春AB	月1		吉川 耕司	物理学を専門としない学生に向け、現代物理学の基礎的な概念や考え方を講義する。基礎的方程式を使い、簡単な物理現象やその法則がどのように表現されているかを学び、方程式を解くことにより何が予言されるかを概観する。	(物理開設) 【受入上限数120名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1D14024	事例に学ぶ環境安全衛生と化学物質	4	1.0	3・4	夏季休業中	集中	1D201	佐藤 智生	人類は多くの有用な化学製品を製造し利用しているが、そのためには危険で有害な化学物質でも取扱う必要がある。本科目では、総合科目II「安全衛生と化学物質」において解説された化学物質とその取扱作業の危険性、有害性及び環境影響を理解した学生を主対象に、化学物質を取扱う際に留意すべき事項や手法を具体的な事例に基づいて講義する。また、グループ討論形式により危険予知訓練(演習)も行う。本科目を通して、化学物質取扱作業に起因する事故、健康障害、環境汚染の具体的防止手法を理解し実践できる人材を育成する。	(化学類開設) 9/28(月)、9/29(火)の各9:00-11:45および13:00-17:15。試験は9/30(水)2限 実務経験教員 【受入上限数120名】 総合科目III「実践・安全衛生と化学物質」の単位を修得した学生は、履修申請できない。
1D15011	現代物理と先端工学	1	1.0	3・4	春AB	金1		関口 隆史	20世紀に、量子力学を始めとした大きな発展を遂げた物理学は、その後も目覚ましい発展を続け、現代の工学に大きな影響を与え、高度情報化社会を支えるさまざまな製品を生み出している。本講義では、現代物理学が、どのように先端の工学に活かされているかを、いくつもの事例を挙げて紹介し、物理学を始めとした自然科学が、工学を通して社会にいかに関与しているかを解説する。3,4年生が、卒業後の進路を選択する際にも大いに参考となる講義をめざす。	(応理開設)応用理工学 類学生の受講は認めない。【受入上限数120名】
1D15021	社会問題を見据えた材料開発とその応用	1	1.0	3・4	秋AB	月1	3A209	金 熙榮	現代の科学技術分野におけるめざましい進歩には、常に新物質・新材料の開発が中心的役割を果たしてきた。本科目では、物質・材料科学に焦点を当て、医療・福祉、エネルギー、環境、電子光デバイス、航空宇宙などの最先端の工学分野における物質・材料開発の状況や今後の課題について解説する。各自の専門分野をベースにより広い視野から高齢化、エネルギー問題、環境問題、資源問題など様々な社会的な課題を認識し、その解決に向けた材料科学に対する幅広い知識を身につける。	(応理開設)応用理工学 類学生の受講は認めない。【受入上限数120名】
1D16011	環境開発・エネルギー総合工学	1	1.0	3・4	秋AB	金1	3A301	文字 秀明	一大学講義と自動車工学-工学システム学類開講の講義で得られた知識が自動車の設計/製作にどのように使われるかを例として示し、大学で習う基礎的な学問の必要性和重要性、社会との関連性を再確認する。	(エシス開設)D科目 【受入上限数120名】
1D16021	知的なシステムをつくるII	1	1.0	3・4	秋AB	水6	3A403	伊達 央	近未来の生活環境において人間に使いやすく役立つ知的システムを実現するための、様々な基礎的技術(メカトロニクス、センシング、人工知能、機械学習、ビッグデータ分析、自然言語など)とその応用例(人支援、コミュニケーション支援、デジタルコンテンツなど)について解説する。また、家庭用ロボット・アンドロイド、IoT(internet of things)、デジタルファブリケーション、eコマース、メディアアートなどの興味深い例をとりあげて、これらの知的なシステムが、私たちのライフスタイルや、人と人の関わり方をどのように変えていくかについて様々な視点から考察する。	(エシス開設) 【受入上限数120名】
1D18011	マルチメディアの舞台裏:コンテンツを創るための実世界指向技術	1	1.0	3・4	春A	月1,2		古川 宏	インターネットを介して、情報家電・携帯端末・パソコン・放送が融合している。このマルチメディアシステムを生活において最大限に活用するため、その技術的・社会的な舞台裏を覗いてみよう。本科目では、マルチメディア・コンテンツの制作について注目し、コンテンツの生成技法、コミュニケーション技術、ヒューマンインタフェース設計技術などに関し、具体的な応用例などを用いて説明する。	(情報開設)【受入上限数120名】 総合科目II「マルチメディアの舞台裏III」の単位を修得した学生は、履修申請できない。
1D19021	メディア処理の数理	1	1.0	3・4	春A	月1,2		藤澤 誠	ICT社会に生きる我々は日々さまざまな情報メディアに囲まれ、それらと密接に結びつきながら日常生活を送っている。本科目では、映像やCGを含む画像系メディアおよび言語メディアを取り上げ、各メディアがどのような計算機処理を経て生活の場へ提供されているかについて、数理的な側面を交えつつ平易に概説する。	(創成開設)【受入上限数120名】情報メディア創成学類学生の受講は認めない。
1D21011	新しい基礎医学における神経科学と免疫研究	1	1.0	3・4	春AB	火1		武井 陽介	神経科学と免疫学はともに環境に個体が適応するために必須のシステムである。この科目では、神経科学と免疫学分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学ぶ。研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかにして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。	(医学開設) 【受入上限数160名】
1D21021	新しい基礎医学における生命科学技術とがん・幹細胞	1	1.0	3・4	秋AB	金1	臨床講義室A	武井 陽介	生命科学技術の進歩は日進月歩であり、がん・幹細胞分野の基礎研究の進歩とあいまって更なる臨床応用が期待されている。この科目では、技術開発とがん・幹細胞分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学び、研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかにして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。	(医学開設) 【受入上限数160名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1D23011	生命科学・医学におけるテクノロジーの進歩	1	1.0	3・4	秋C	月1,2	5C316	渋谷 和子, 森川一也, 正田 純一, 山内 一由, 會田 雄一, 磯辺 智範, 小池 朗, 栗田 尚樹, 三好 浩稔, 西村 健	生命科学におけるテクノロジーはめざましく発展しており、医学分野におけるテクノロジーの進歩は、疾病の診断・治療に素早く還元されている。本講義では、生命科学・医学の専門領域におけるテクノロジーに焦点を当て、生体の機能の評価における最新のテクノロジーを学び、またそれをもとにした最先端の疾病診断・治療について理解する。	(医療開設)【受入上限数120名】

総合科目III 科目群E

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1E01011	言語と社会	1	1.0	3・4	秋AB	月2	3A209	佐々木 勲人	我々は言語によって世界を捉え、思いを表現しながら社会生活を営んでいる。言語と社会の関係に関わるさまざまな側面について、特に教育・文化・情報等の学際的な視点から考察する。	(人文開設)【受入上限数120名】
1E01021	食文化からみる民族と歴史	1	1.0	3・4	秋C	月1,2	1D204	滝沢 誠	私たち人間にとって生の根源である食とそれにまつわる食文化は、民族によって実に多様で、そこには豊かな世界が形成されている。本授業では、「食」をキーワードに、民族とその背後にある文化を掘り下げ、さらにそこから歴史をどう読み取るのか、また、食文化の中に多様性/共通性が生まれた背景は何であるのかに迫っていくことを目的とする。	(人文開設)西暦偶数年度開講。【受け入れ上限120名】
1E01034	現代社会の哲学的考察	4	1.0	3・4					現代社会の諸問題について、哲学・思想の視点から掘り下げて考察する。	(人文開設)【受入上限数80名】西暦奇数年年度開講。
1E02011	変動する地域を捉える	1	1.0	3・4					いつの時代・社会においても、人々の生活はそれぞれの地域のなかで、その地域をとりまく環境とのかかわりのなかで営まれてきた。しかし現代、政治や経済、あるいは文化の枠組みは大きく変動しつつある。そのような状況においては、地域というものも固定的に捉えるのではなく、問題に応じた時間的・空間的広がりを設定し、そのなかでそれぞれの営為を追いかけていく必要があるだろう。本講義では、主に日本とアジアを中心とする具体的な事例をもとにしつつ、変わりつつある地域を捉えるための地理学・民俗学・文化人類学・歴史学からの捉え方を紹介し、現代社会に対する学際的な理解を深める。	(比文開設)西暦奇数年年度開講。【受講制限数120名】
1E02021	破壊と再生の歴史・人類学	1	1.0	3・4	秋AB	月2	2B412	山澤 学	グローバルな現代文明を生きる私たちは、社会的暴力、あるいは自然災害、地球規模の環境破壊に至るまで、さまざまな形態をとる破壊に直面している。同様の状況は、人類史における過去の変革期にもしばしば出現した。本講義では、かかる変革期に発生した自然災害および戦争に注目し、それらによる破壊の状況と形態、また、破壊後における再生の方法を検証し、現代の私たちに課されている問題を考えていく。	(比文開設)西暦偶数年度開講。【受講制限数120名】
1E02031	比較文化の探求—名著のすすめ—	1	1.0	3・4	春AB	月2		対馬 美千子, 佐野 隆弥	人文・文化研究において、文献との出会いは重要である。感銘を受け、学問的に刺激された文献は、研究上のみならず、その人の生き方にも影響を与えることがある。本講義では、グローバル時代において比較文化を探求する教員が自ら選んだ、学生必読の文献を紹介しつつ、高度かつ専門的な視野から文化を読み解く方法を考えていく。	(比文開設)【受入上限数120名】
1E03011	日本とは何かIII	1	1.0	3・4	春AB	月2		杉本 武	現代の私たちが自明のものとしている「日本語」「日本文化」の概念に、近年の研究動向を踏まえつつ再検討を加えることで、「日本とは何か」を考えていく。	(日日開設)日本語・日本文化学類生の履修を認めない。【受入上限数120名】
1E06011	学校を考えるIII	1	1.0	3・4	春AB	月2		佐藤 博志, 平明子, 川口 純, 京免 徹雄, 遠藤 優介	これからの学校と教師の在り方について論究する。はじめに、学校をめぐる社会変動と教師の専門性論について日本を中心に解説する。次に、開発途上国の学校と教師について講義する。そして、国際バカロレアの教育実践と技法について講義する。さらに、特別活動、理科教育の観点から、現代の教育政策や学校における教師の実践について、理論的裏付けもふまえながら、解説する。	(教育開設)人間学群学生の受講は認めない。講義の一部にディスカッションを取り入れるため、受入れ上限数を80名とする。平成28年度と平成27年度に科目番号1B06031「学校を考えるIII」(総合科目II)の単位を修得した学生は、この授業の履修を認めない。
1E17011	経済学入門III	1	1.0	3・4	秋C	火3,4	3A306	佐野 幸恵	ミクロとマクロをつないできた統計物理学を背景に、近年発展してきた「社会経済物理」について、その歴史的な流れから最先端の話題まで紹介します。	(社工開設)【受入上限数120名】
1E25011	社会のなかの建築デザイン	1	1.0	3・4	秋A	火1,2	5C407, 5C301	貝島 桃代, 加藤 研	デザインに何が出来るのか? 社会との関わりについて、建築デザインの観点から、デザインの可能性を探る。	(芸術開設)平成28年度までの「社会のなかのデザイン」を修得済みの学生は履修できません【受入上限数78名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1E25021	スポーツ芸術表現学	1	1.0	3・4	春AB	火6		太田 圭, 嵯峨 寿, 田中 佐代子, 大原 央聡, 田島 直樹, 山本 美希	「スポーツ芸術」とは「スポーツをテーマとした芸術作品」のことで、本授業では、これらを「創る」「観る」「支える」という3つの立場から捉える。オリンピックの芸術競技をはじめとした美術史におけるスポーツ芸術、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」、現代におけるスポーツとデザインの関わり等を、アーティスト・デザイナー・漫画家等の多様な視点から学び、新しいスポーツ芸術の表現について考える。	(芸術開設) 【受入上限数120名】

総合科目III 科目群F

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1F04011	現代社会学のフロンティア	1	1.0	3・4	秋AB	水1	1D204	葛山 泰央	各教員が取り組んでいる最新の研究をテーマに、現代社会学のフロンティアを指し示す。	(社会開設) 【受入上限数120名】
1F05014	国際学を学ぶIII	4	1.0	3・4	春AB	月1		中野 優子	グローバル化が進展し、環境問題や人口問題が深刻さを増すなか、国際社会で生じる諸現象について理解することが求められている。本講義では、グローバルな対応が求められる国際社会の諸課題に対して、人文・社会科学や情報・環境学における様々な視点や方法からアプローチしつつ、今後の国際社会の在り方について理解と考察を深めることを目的とする。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学に関する基礎知識を発展させるため、この授業ではPBL(Project-Based Learning)あるいはグループワーク形式を探り、グループごとに設定したリサーチトピックについて、課題の設定、課題の解決に向けた文献講読や資料収集、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、理解を深める。	*国際総合学類生の受講は認めない。(国際総合学類開設)【受入上限数60名】
1F07011	心のしくみを解き明かすニューロサイエンス	1	1.0	3・4	春AB	月2		高橋 阿貴, 山田 一夫	21世紀の科学の最大のテーマである「こころ」の理解を目指すニューロサイエンス(神経科学)は、心理学、行動学、分子生物学、細胞生物学、解剖学、生理学、薬理学、臨床医学、工学、社会科学等を含む学際的な学問領域として現在も発展し続けている。本講義では、ニューロサイエンスにおける最新の研究知見を紹介し、今まさに明らかにされつつある「こころ」のメカニズムについて理解を深める。なお一部の講義は、ニューロサイエンスでの共通言語である英語で行う。	(心理開設) 【受入上限数200名】 2020年度の開講を最後とする。
1F08011	障害科学から見た社会—インクルーシブ社会の一員としての「自分」—	1	1.0	3・4	春AB	金4		山中 克夫, 岡 典子, 名川 勝, 竹田 一則, 野呂 文行, 柘植 雅義, 八重田 淳, 米田 宏樹	「人間が社会的に自立するとはどういうことか」、「社会に参加し、自己実現を図るとはどういうことなのか」について、障害のある人への教育的・福祉的支援や、障害のある人と社会との関係を学ぶことをとおして、受講生に考えてもらう。さらに、誰もが社会参加し自己実現を図ることのできるインクルーシブ社会の実現のために、受講生各人が社会の構成員として自分にできることを、自分の学士力に照らして考える機会を提供する。	(障害開設) 障害科学類生の受講は認めない。また、総合科目II「障害とともに生きるIII」及び人間学群コア科目「障害科学II」を履修済みの者の受講も認めない。 実務経験教員 【受入上限数120名】
1F17021	都市・地域・環境を探るIII	1	1.0	3・4	春C	火1,2		雨宮 護, 大澤 義明, 藤井 さやか	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。本科目では、総合科目「都市・地域・環境を探るI,II」の発展形として、都市計画やまちづくりの実践事例を手掛かりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのようにかかわっていくべきかを考える。	(社工開設)平成26年度以前に総合科目II「1C17121都市・地域・環境を探るIII」を修得した学生は履修不可。 【受入上限数120名】
1F20011	記録遺産学	1	1.0	3・4	春C	月1,2		白井 哲哉, 辻 泰明, パールイシエフ エドワルド, 江前 敏晴, 田中 友香理, 石田 大平	文化財や文化的な資料を対象に、どのように記録を作成し、学術資料として管理していくかを解説する。記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を取り上げ、アーカイブズ学・博物館学の視点から、古文書を含む歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)を取り上げ、ドキュメンテーション(記録管理)の方法論を学ぶ。	(知識開設)【受入上限数120名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1F20024	デジタルクリエイティブ基礎	4	1.0	3・4	春B	木5,6		近藤 祐爾	プレゼンテーション、各種デザインから写真・動画投稿にいたるまで、デジタルコンテンツのビジュアル表現に必要なとされる基礎技術を理解し、実際に活用できるようにします。普段何気なく目に見えているWeb、広告、ポスター、カタログ、雑誌・書籍、TVCM、映画、製品パッケージ、工業製品からプレゼンテーションに至るまで、さまざまなビジュアル表現が使われています。InstagramやTwitterなどのSNSへの画像アップロード、LINEスタンプの利用、YouTube動画のアップロードなど、日常生活においてビジュアル表現を活用する場面も増えています。Instagram向けの画像加工アプリでは一体どんな風に画像が加工されているのか、LINEスタンプはどのように作られているのか、YouTube向けに動画コンテンツを制作したいときどんなことを知っておくとよいのか、デジタルコンテンツにおいてビジュアル表現を活用するには、クリエイティブ技術の理解が必要になります。現在、ビジュアル表現に関わる制作の大半はデジタル化されているので、デジタルクリエイティブ技術の基礎を理解することで、よりよいビジュアル表現のための知識が習得できます。	(情報学群開設)【受入上限数60名】/ 初回は7A106に集合 上限人数を超過した場合は、TWINSに履修申請済みの初回授業出席者からくじ引きによる受講調整を行います。 / テクニカルコミュニケーター (TC) 専門課程「デザイン・表現設計」分野の科目。
1F22011	健康と社会	1	1.0	3・4	春A	月5,6		柴山 大賀, 竹熊カツマタ 麻子, 阿部吉樹, 伊藤 智子, 萩野谷 浩美	現代の少子高齢化の社会構造やストレス社会において、人々に様々な健康影響が生じている。いくつかの健康問題を題材に、社会的要因と健康との関連性について考えることをとおして、働き方や生活の仕方を見直す機会とし、今後の社会や自身のあり方を探る。	(看護開設) 実務経験教員 【受入上限数120名】
1F24212	スポーツと平和・非暴力	2	1.0	3・4	春AB	月2		河合 季信	スポーツは、言葉や人種、宗教などを超えて人々が交流できるという機能を持つ一方で、実践の現場では、選手間、指導者と選手との間、選手と社会との間などで、依然として様々な暴力やイジメ、ハラスメントなどが存在する。本科目では、種々の場面で発生する意見の相違や対立状態に対して建設的に対処する方法や、その前提となる自身や他者を尊重することの意義を演習を通して学び、前述した課題の解決法を探る。また、それらとオリンピックの価値(「Excellence」「Respect」「Friendship」)や平和との関連について理解を深める。	(体育開設) 【受入上限数60名】

総合科目III 科目群G

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1G01011	卒業生による業界探訪	1	1.0	3・4	秋AB	木6	1H201	池田 潤	金融、マスコミ、IT、食品、医療、スポーツ、ベンチャー、公務員、アカデミアなどの業界に精通した卒業生が各業界の現状、魅力、求める人材像、さらに筑波大での幅広い学びと深い専門性が社会でどう活かされるかについて、講義と質疑応答を行う。	(人文開設)【受入上限数200名】
1G10011	アカデミック・コミュニケーション1-伝えるための基礎-	1	1.0	3・4	秋AB	後日周知		野村 港二	これから、論文執筆や口頭発表の機会が増えるみなさんと、単なる発表のテクニックではなく、専門的な学問の内容を伝える際に必要なことは何かを一緒に考えます。論拠を持って、事実と意見を分けて、時には気持ちをこめて、伝えるためには、どんな準備が必要なのでしょうか。	(資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1G10081 アカデミック・コミュニケーション1、1G10091 アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】
1G10021	アカデミック・コミュニケーション2-伝えるための基礎-	1	1.0	3・4	秋AB	月2	3A409	野村 港二	口頭発表の原稿と、論文の原稿は、どのように書き分けるべきでしょうか。スライドやポスターなどの効果的なデザインとはどのようなものなのでしょうか。そして、そもそも伝わり、分かるとは、生理学的にはどのような脳の活動なのでしょうか。この講義では、専門的な内容を誰にでも伝わるように発信するという、高学年生に必要な考え方と方法を紹介します。	(資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1G10081 アカデミック・コミュニケーション1、1G10091 アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1G24014	グローバルリーダー養成講座	4	1.0	3・4	春AB	火5		竹村 富士徳	自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。 ・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。	(体育開設)【受入上限数120名】
1G26031	社会基礎学II-「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義	1	1.0	3・4	秋AB	集中	ユニオン講義室	坪内 孝司	世界は、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。 この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、本リレー講義では、高年次の学群生を対象に、これまで学んできた教養や専門性を基礎に、社会で活躍する上において求められる総合的な基礎力や想像力、構想力、分野を超えた広い視野の向上をサポートします。 講義のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か?」、について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創生の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。	(教育企画室企画) 10/3, 10, 17, 11/21, 12/5, 12/19 実務経験教員 【受入上限数200名】 12/19は期末試験日です。